

目次

序にかえて	i
-------------	---

第1章 問診の構造 1

問診上達の要素	1
2つの問診	2
治療問診	3
筆者はこうしました	5
主訴の絞り込み	9
木の理論	13
3W1H	16
3W1Hは急性病の決め手	17
慢性病の対策	21
増悪因子と緩解因子	21
「逆引き」増悪・緩解因子	35

第2章 症状—症候—証 51

証の定義	51
可視から不可視への転換	55
代表的な症候群は使えるか	56
症候群は主訴により変化する	57
心気虚の定義を例に	58

逸脱した症状, 気になる症状	60
問診で得る重要症状は症候群に昇華する	61

第3章 | 問診の作法 65

2-8の法則	65
二問を求めず	66
はい・いいえは愚問	68
息づかいを感じよう	68
慎重な言葉・お陰様で	70
普通です	71
行間を読む	73
挙動を見る	74
正短の書	76

第4章 | 症状の変換 79

症状の幅	79
症状の軽重	80
痛みの表現	81
各論に入る前に	88

第5章 | 各論—問診レシピ 89

発熱	90
鬱熱	92
悪寒・悪風	94
畏寒肢冷(冷え)	96
汗	98

頭痛	102
胸痛	106
脇痛	110
胃痛	112
腹痛	116
肩こり	120
背部痛	124
腰痛	128
口渇・口乾	134
浮腫	138
飲食	142
味覚	146
大便	148
小便	152
耳鳴	154
失眠	156
疲労	160
精神状態	164

第6章 現代医学を用いた問診 167

ジョイント問診	167
不妊症	167
心理的フォロー	176
索引	179
総括およびあとがき	189

コラム

中医人口の増加……………	3	師匠の思い出……………	67
感覚重視は是か非か……………	5	普通のサラリーマン……………	72
師匠……………	8	表言葉・裏言葉……………	74
更年期障害……………	13	バーゲンセール……………	76
夜間尿……………	15	偉大な企て……………	85
常識の拡大……………	20	サイン……………	93
陰虚～陰虚火旺における勝敗…	26	低体温……………	97
日中入浴事情……………	30	寿司と天ぷら……………	105
問診の戦略……………	35	舌色……………	109
人間……………	37	感謝……………	119
気を感じる……………	40	同位の鎮痛……………	123
血虚の2系統……………	45	日本語の功罪……………	127
人より自分だろう……………	47	不思議な体験……………	132
予備問診……………	49	協調的自立……………	137
ゆるやかな気……………	55	浮腫と日本人女性……………	141
中医書の作法……………	59	腎の封蔵……………	159
私の死生観……………	64	頭の疲労……………	163